

ボッカチオ+パゾリーニが組んだ！ 華麗に高らかに《命》の賛歌！

エロやかに遙か性の故郷へ誘う——
名匠の映像が世界人間文学の巨峰へ
思いきり豊かな挑戦をした

■ヘルシン映画祭 特別賞受賞

■フランス/ラウール・レビー賞受賞

IL DECAMERON

da "IL DECAMERON" di G. Boccaccio

監督・脚本ピエル・パオロ・パゾリーニ / 原作「デカメロン」ジョバンニ・ボッカチオ

音楽エンニオ・モリコーネ

製作アルベルト・マグリマディ

演出ダンテ・フェレッチ

編集ニコ・タリ・コリ

プロダクション/ダニロ・ドナティ

デカメロン

シルバーナ・マンガーラ / フランコ・チッチ / ニネット・ダボリ / アンジェラ・ルーチェ / コンチェッタ・ロマーノ / ジャンニ・リッツォ / ピエル・パオロ・パゾリーニ

ユナイト映画
United Artists
Entertainment from
Transamerica Corporation

ピエル・パオロ・パゾリーニ作品 デカメロン

ユナイト映画 United Artists
Exclusively from Transamerica Corporation

イーストマンカラー

ボッカチオ＋
パゾリーニが組んだ！
豪華に高らかに〈命〉の賛歌

■スタッフ

製作…アルベルト・グリマルディ

監督・脚本……

ピエル・パオロ・パゾリーニ

原作……ジョバンニ・ボッカチオ

撮影……トニノ・デリ・コリ

■キャスト

チャベレット…フランコ・チッティ

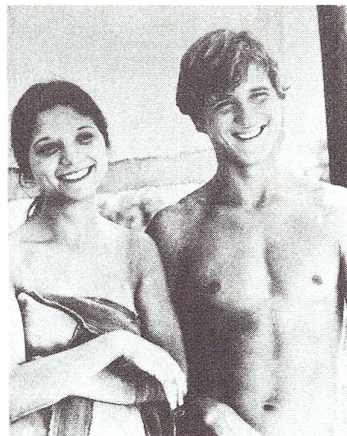
アンドレウッチョ……

ニネット・ダボリ

修道院長……ジャンニ・リッツォ

ジョット……

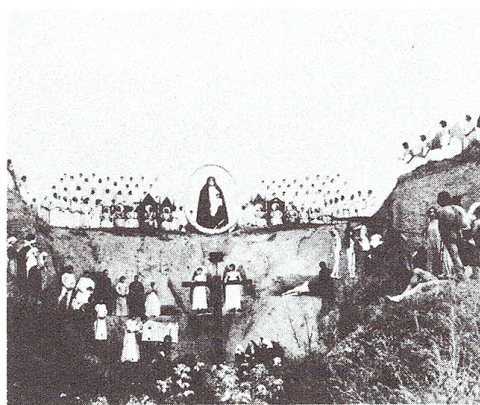
ピエル・パオロ・パゾリーニ



いまほど性が氾濫しているときはないという。映画、TV、ラジオ、新聞、週刊誌、雑誌にとあらゆる活字媒体、映像媒体に「性」が見え隠れする。それがポルノ・ブームとして一躍世相を賑わせ、論争を起しているのだ。警視庁が風紀問題として「日活ロマン・ポルノ路線」に手を入れてきたのは、いかにも「性の後進国」日本らしい。そんな状況を喝破するような映画が登場した。ピエル・パオロ・パゾリーニ監督の最新作「デカメロン」がそれだ。

パゾリーニといえば「アポロンの地獄」(67)、「テオレマ」(68)、「王女メデア」(69)「豚小屋」(70)と一作ごとに問題作を提供。人間性の極限を擬視した鋭い作風で現代における最も刺激的な映像作家といわれるほどの存在。その彼がルネッサンス期の異色作家ボッカチオの名作に取り組んで再び衝撃を叩きつけた。

原作は、暗黒の中世から脱皮してヨーロッパ人たちが人間性を謳歌し始めた時だけに、その開けっぴろげなセックス描写は類を見ない。人間文学の最大傑作として人類の財産ともいえる。パゾリーニは、この作品に到達したのは「本能的な反応」だと



いい、「現代と非常に類似性をもつボッカチオの十四世紀社会に強く引きつけられた」という。イタリア最大の製作者アルベルト・グリマルディ指揮下に完成したこの作品は、すでに「ベルリン映画祭特別賞、ラウール・J・レビー賞を受賞している。また早くもイタリアお得意の海賊版が出現し「悶着を起している。●性の故郷への入口



第二話 マゼットと尼僧
若者マゼットは、オシ、つんぼ、白痴をよそおって尼僧院の園丁になることに成功した。若い尼がオシだから大丈夫とばかりに彼を小屋に連れ込んだことから、院長はじめ、全部の尼が彼と楽しむようになる。あまりの肉弾攻撃にたまらずマゼットは沈黙を破り、やめさせてくれと願ひ出る。しかし院長は口がきけるようになったのは神の思召しとばかり、マゼットを聖者に仕立ててしまった。その後、彼はオシをよそおう必要もなく、仕事をする必要もなく、ただ尼たちを満足させることに専念すればいいということになった。

第三話 ペロネッラ
ペロネッラ(アンジェラ・ルーチエ)が愛人グラネッロを連れ込んでよろしくやっている最中、突然夫が帰ってきた。あわてて彼女は愛人を大がめの中に隠したが、夫がいうには、このかめをかなりの値段で買いたいという人がいるという。利口なペロネッラは少しも騒がず、私はずっと高く買う人を見つけた、その人が今かめを調べていると大声でいい、隠れている愛人も口裏を合わせてまんまと夫をだましたのである。

第七話 ドン・ジャンニ
ドン・ジャンニという狡猾な司祭が、頭の単純な夫婦に、自分は女を馬に変えることができると話していた。興奮してぜひそれをやってみてくれという妻に、司祭はこれは非常にデリケートなことだから、その最中に二人のうちどちらかでも声を出したらまじないが破れると説明した。夫婦はこっくりうなずいた。司祭は妻を四つんばいになせ、体を次々と立てていった。彼女のおしりへ来たとき、司祭はしつぽが足りないといってやにわに自分の一物を彼女のそれに突きさし、夫の抗議をよそに欲望を満たした司祭は声をあげたからまじないが消えた二人をどなりつけた。へ1時間49分

近日常 衝撃のロードショー

学校引卒及び団体鑑賞申受中
お問合せは (503)6136 U A 渉外
(501) 6682 ウイズダム

みゆき座 (591) 5357